



TITLE:

京大広報 No. 320

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 320. 京大広報 1986, 320: 173-176

ISSUE DATE:

1986-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209362>

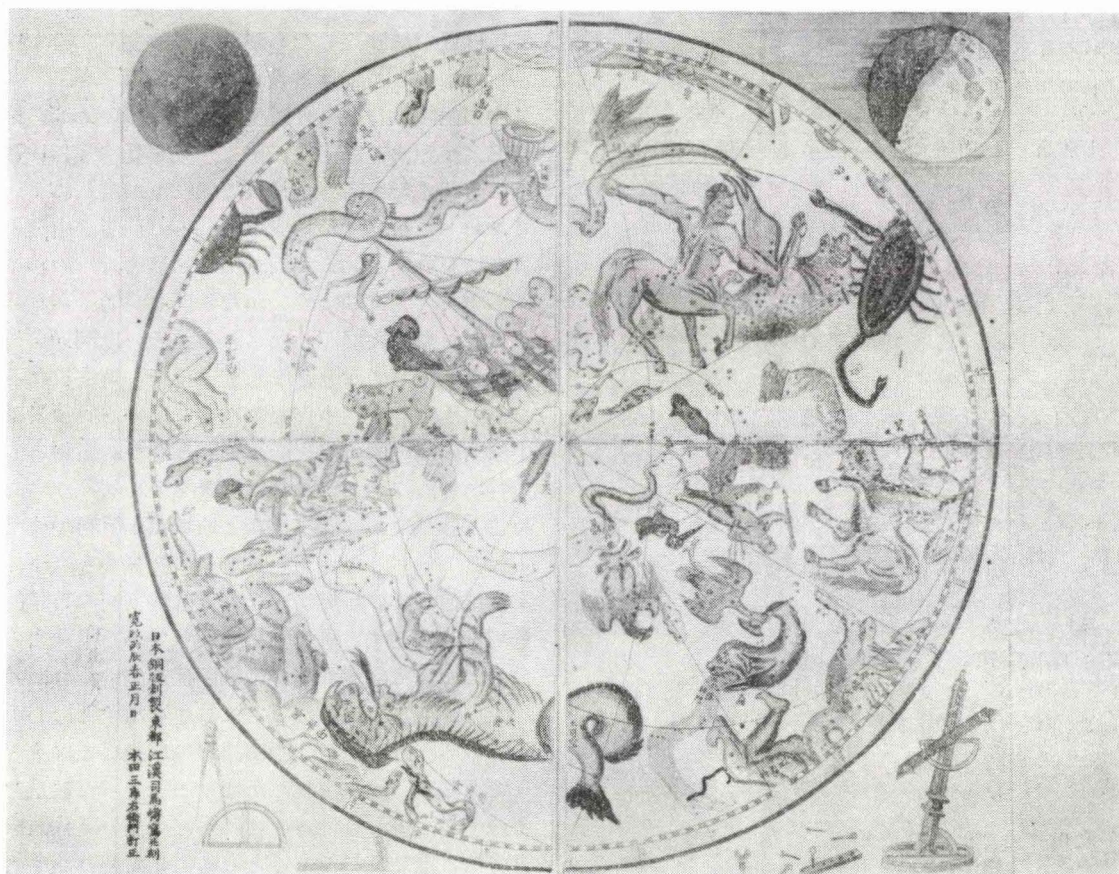
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 320

京都大学広報委員会



司馬江漢の銅版天球図 一関連記事本文 175 ページ

目 次

昭和61年度日本語・日本文化

研修留学生の受け入れ…………… 174

＜紹介＞

教養部中露語教室…………… 174

洋学史資料展—日本近代学術の源流—の開催…………… 175

計 報…………… 175

＜随想＞

鴨川のほとりで

名誉教授 安平 公夫…………… 176

＜大学の動き＞

昭和61年度日本語・日本文化 研修留学生の受け入れ

昭和57年度から、本学では「日本語・日本文化研修留学生制度」(広報No.240参照)による留学生を受け入れているが、昭和61年度は、11か国から16名を受け入れることとなり、10月15日(水)京大会館において総長事務代理寺本英理学部長はじめ関係教職員の出席のもとに開講式が行われた。

また、昨年度の留学生15名に対する修了式が9月17日(水)京大会館において開催され、修了証書が授与された。

本年度の研修の概要は次のとおりである。

日本語・日本文化に関する授業計画と授業時間数

	授 業 科 目	授 業 時 間 数		
		第一期 (10～3月)	第二期 (4～9月)	計
日 本 語	読解・口頭表現	時間 30	時間 30	時間 60
	日本語講読	30	30	60
	文章表現	30	30	60
	小 計	90	90	180
日 本 事 情	日本事情(A)	32	26	58
	(ア) 日本の社会に 関する概説	(10)		(10)
	(イ) 日本の法政に 関する概説	(12)		(12)
	(ウ) 日本の経済に 関する概説	(10)		(10)
	(エ) 各分野の 諸 問 題		(26)	(26)
	日本事情(B)	50	42	92
	(ア) 日本文学	(20)	(22)	(42)
	(イ) 日本文化・ 歴 史 (風土を含む)	(30)	(20)	(50)
特 別 教 育	現代産業及び現代 文化に関する参観・研修等	60		60
	伝統産業及び伝統 文化に関する見学等		60	60
	特 別 講 義		30	30
	小 計	60	90	150
	日本語強化コース	240	80	320
	合 計	時間 472	時間 328	時間 800

(外国人留学生日本語・
日本文化研修実施委員会)

＜紹 介＞

教養部中露語教室

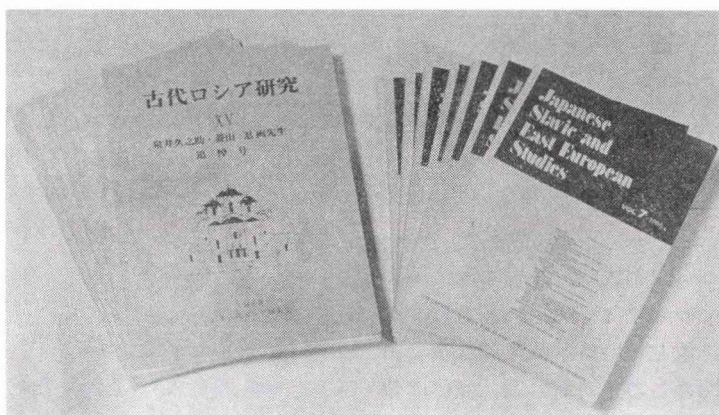
教養部中露語教室は、その名前のとおり中国語とロシア語が合体して一教室を形作っている。しかしながら、これには特に意味があるわけではなく、教養部の前身たる分校の創設の際に中国語、ロシア語の教官がそれぞれ各1名のみであったためにとられた便宜的な措置がこんにちまで踏襲されているに過ぎない。現在は中国語、ロシア語ともそれぞれ2名ずつの計4名から構成され、内部的には互いに独立したいわば「準教室」とでもいうべきものとして運営されている。

中国語の教官は、分校創設当時からいえば、都合3名が順次他部局に転出した後を受けて、1976年に着任した1名と、後れて1983年に増員によって加わった1名とから成っている。前者は中国の古典詩を専門とし、六朝詩から初盛唐詩への移行において、両詩間にはいかなる関連が考えられるか、また新たな展開がなされるかという問題を研究テーマとしており、また別に王維の詩文集たる『王右丞集』の定本作製に従事している。後者は中国語の歴史的研究をその専門とする。資料として特に外国文字で書かれた文書を多く用いるのを特色とし、所謂敦煌文書など西域出土資料がその主たるソースとなっている。その関係から当研究室では他大学の研究者を含めて敦煌文書の言語的分析を目的とする研究会が開かれている。蔵書の数量については他部局の中国関係部門のそれに及ばないが、集書にあたっては特色を出す様に心がけている。外国文学の中国語訳の収集などはその一であって、現在までにかなりまとまった数量を所蔵するに至っている。これらは中国の近代語成立史の貴重な資料であるとともに、対照言語学的な研究の立場からも極めて興味深いものである。

次にロシア語研究室は教官2名からなっている。先任の1名は分校創設以来のメンバーであり、これに1964年他の1名が加わった。途中1名の増減があったが、そのまま現在に至っている。1名の専門は文学及び演劇であり、主たるテーマはロシア文学の言語学的研究である。方法的には語彙が文体及び作品にどの様に関わっているかを一貫して追求している。他の1名はこれに対して

語学を専門にしており、特に中世ロシアの諸年代記を研究の対象にしている。方法的には文法範疇の意味と文法形態の持つ表現性を追求しようとしている。

ロシア語と関連する他のスラヴ語についていえば、1名は古代スラヴ語の外、特に古代ロシアの口承文学に詳しい。他の1名は中世及び現代のチェコ語に関心を持っている。これらの関心を反映して蔵書にはロシア・ソヴィエト文学の外、古代ロシア語及び古代スラヴ語に関する文献が比較的多いのが特徴である。スラヴ学は近年ようやく研究者の数が増加しつつあるが、未だその数は限定されており、国立の研究機関としては、主として政治経済の研究を中心とする、北海道大学のスラブ研究センターがあげられるのみで



ある。これらの事情を反映して、当研究室は小なりとはいえ近畿におけるこの分野の研究の中心的な役割を果たしている。当研究室を中心とする『古代ロシア研究』や *Japanese Slavic and East European Studies* (写真) の刊行などの社会的な活動もその現れである。(教養部)

洋学史資料展—日本近代学術の源流—の開催

このたび附属図書館では、本学所蔵資料のうちから日本近代学術(学問と技術)の興隆に大きな影響を与えた洋学関係のものを選び、展示会を開催します。

なお、期間中に本展示会のテーマに関連した講演会も開催しますので、多数ご来場下さい。

記

- 1) 日 時：11月20日(木)～28日(金)
(23, 24日(日・祝日)を除く)
午前9時30分から午後5時まで
- 2) 場 所：京都大学附属図書館展示ホール
(3階)
- 3) 展示資料の内容：
 1. 世界認識の拡大
(日本と世界の地理、地誌等)
 2. 自然(物理、化学、本草学等)
 3. 技術(測量、航海、砲術等)
 4. 医学(解剖学、外科、内科等)
- 4) 記念講演会

日 時：11月25日(火)午後2時

場 所：京都大学附属図書館

AV ホール(3階)

講 師：吉田光邦氏(京都大学名誉教授)

演 題：「洋学と日本の近代」

(備考) 入場無料、一般公開

(表紙写真の説明)

司馬江漢(1747～1818)

銅版天球図 寛政8(1796)年

江漢は江戸の絵師。狩野派、南蘋派、春信浮世絵などの影響を受け、さらに平賀源内により洋風画に導かれる。大槻玄沢の協力により Noel Chomel「家庭百科辞典」(初版1709年)の蘭語増訂版から腐食銅版術の知識を得、天明3(1783)年、その製作に成功。なお本図の星名は中国天文学のそれである。江漢は校訂者本田利明とともに江戸蘭学の周辺にいた啓蒙家であるが、洋学、洋画の実用価値を唱導した点で重要である。同じ頃製作されたとと思われる太陽真景図、地球浮天図、雪花図を併せ展示した。

(附属図書館)

計 報

安藤 和彦(理学部助手・理学博士)

10月15日逝去、40歳。本学大学院理学研究科博士課程修了。昭和52年理学部助手就任。専門は原子核論。

